

2018年1月1日



Dog Dance Japan 規程書

— 無断で複製・転載することを禁止します —



目次

Dog Dance Japan 規定

| | |
|-----------------------------|---|
| 1 Dog Dance Japan 一般規定..... | 3 |
|-----------------------------|---|

FCI 国際ドッグダンス競技会規程

| | |
|---|----|
| 1 FCI ドッグダンス競技会の管理、参加者および審査..... | 5 |
| 1.1 健康..... | 5 |
| 1.2 アンチドーピングおよびワクチン接種の規則..... | 5 |
| 1.3 攻撃性..... | 5 |
| 1.4 手荒な扱い..... | 6 |
| 1.5 発情中および妊娠中の雌犬..... | 6 |
| 1.6 外観の変化..... | 6 |
| 1.7 去勢または避妊犬..... | 6 |
| 1.8 犬の検査..... | 7 |
| 1.9 ハンドラーの義務..... | 7 |
| 1.10 犬の装飾品と小道具..... | 7 |
| 2 現場の準備と設備..... | 8 |
| 2.1 競技リングのサイズ..... | 8 |
| 3 一般規定、失格、審査票..... | 8 |
| 3.1 ハンドラーの一般規定..... | 8 |
| 3.2 音楽..... | 8 |
| 3.3 小道具の準備と撤去..... | 9 |
| 3.4 引き綱..... | 9 |
| 3.5 指示..... | 9 |
| 3.6 失格..... | 9 |
| 3.7 採点..... | 10 |
| 3.7.1 表現..... | 10 |
| 3.7.2 内容..... | 10 |
| 3.7.3 芸術的解釈..... | 11 |
| 3.7.4 動物福祉..... | 11 |
| 3.7.5 「個人」戦における同点..... | 11 |
| 4 ヒールワーク・トゥー・ミュージック (HTM) とフリースタイル..... | 12 |
| 4.1 ヒールワーク・トゥー・ミュージック (HTM)..... | 12 |
| 4.1.1 「理想的な」ヒールワーク・ポジションの定義..... | 12 |
| 4.1.2 技術的難易度..... | 12 |
| 4.1.3 ヒールワーク・トゥー・ミュージック (HTM) のポジション..... | 12 |
| 4.2 フリースタイル..... | 16 |
| 4.2.1 技術的難易度..... | 16 |



Dog Dance Japan 規程

Dog Dance Japan は、

犬と一緒に楽しんで参加できるスポーツとしてのドッグダンスを目指します。

ドッグダンスは熟練した犬のムーヴやトリックを組み合わせ、音楽に乗せて犬とハンドラーとのチームワークを披露し、観客を魅了するものでありたいと考えます。

Dog Dance Japan が開催する競技会はFCI国際ドッグダンス競技会規定に準じます。

不確かなことについてはFCI規定が優先されます。

また、参加者は Dog Dance Japan が開催するイベントすべてに於いて、以下にあるような良識ある行動・言動をお願いいたします。

1 Dog Dance Japan 一般規定

- a. 全ての犬は出場者の自己の責任において出場すること。Dog Dance Japan（以下DDJP）は犬、又は出場者のいかなる損傷に対しても責任を問われることはない。
- b. 犬の健康と福祉が守られていないと判断した場合は、参加を拒否することがある。
- c. すべての犬種が参加できる。
- d. 決められた場所以外ではリードを着用のこと。
- e. 入金の確認をもって正式な受付とする。
- f. 本人の都合によるキャンセルにおいて、一旦入金された申込金は返金されない。
- g. DDJPは大会のスケジュール・ランニングオーダー・成績を発表する。
- h. リングのサイズやジャッジの座る位置については、競技会の2週間前までに参加者に通達する。
- i. 出場する犬は大会当日の時点で、最低月齢18ヶ月と1日であること。
- j. 一回申し込んだ後でのハンドラーの交代は出来ない。
- k. ひとつのクラスのエントリー数が20を超える場合には、均等に分割して休憩を入れる。
- l. リング内に食べ物、おもちゃ等のご褒美、訓練用具を持ち込んだり、与えてはいけない。
- m. 演技を行う犬の動きは自然で、且つ、安全であること。（犬にとって不自然な動き、有害なムーヴは禁止）
- n. 競技を棄権したり、途中でやめることはできるが、採点された後でその競技の取り消しはできない。
- o. 1回の競技会において同じ犬が同じクラスに2回エントリーすることはできない。



-
- p. 1度リングに入場したら、その後は一切の練習はできない。また、ホワイエに戻ることもできない。
 - q. クラス分けは自己申告制とする。但し、前回のコンペで3席までに入賞したペア（同一ハンドラーと犬の組み合わせ）は必ずその上のクラスにエントリーすること。HTM/FSの区別はせず、どちらでも入賞者は上のクラスになること。
 - r. ジャッジの判定に抗議・非難をしないこと。（クリエイティブな競技の為、主観的な審査基準が適用されることもある）
 - s. ジャッジは自分がジャッジとして参加する競技会に自分の犬を参加させることができるが、それは自分以外の者がジャッジするクラスであること。
 - t. 犬のおもちゃやターゲット、ボールなどのトレーニング用具を小道具として用いてはならない。これらの使用は失格となる場合がある。ルーチン中の小道具の使用で、犬の振る舞いや態度に著しい変化が現れないこと。
 - u. 本イベントの運営方法や規定などに関して疑問や質問がある場合は、本会あてに直接文書にて問い合わせることとし、その事についてSNS上において誹謗・中傷と取られるおそれのある記事を投稿したり、議論をしないこと。
 - v. セミナー内容や他者の演技等の動画、静止画の撮影、録音をしてはいけない。
 - w. 故意にルール違反をしたと判断された者は3年間のDDJP開催イベントへの参加を停止する。



REGULATIONS FOR FCI INTERNATIONAL DOG DANCING COMPETITIONS

FCI 国際ドッグダンス競技会規程

この規程の目的は、ドッグダンスの分野に参加することによって、オーナー、トレーナー、およびハンドラーが自らのスキルをさらに発展させ、拡張することを奨励することである。

規程は、すべての犬種が同等の立場で競技でき、犬の福祉が保障されるように設計されている。

ドッグダンスの目的は、犬とハンドラーが音楽と組み合わせられ、自発的で良く働く犬とそれを支えるハンドラーとの間の明らかな協力関係を提示する芸術的ルーチンを考案して実行することである。この分野に関わる訓練は、犬のハンドラーに対応する意欲を高め、結果として日常生活における全体的な行動が改善する。訓練された犬は、犬および飼い主、ひいては社会一般の飼い主の受け入れに貢献する。

この国際規程は、各国が独自の規定と独自性を維持しつつも、国際競技会では共通の一連の規則を提供するように設定されている。

この規程は、ドッグダンスのスポーツを促進し、国境を越えた競技を促進するためにまとめられた。

このルールは Dog Dance Japan によって翻訳されました。この翻訳版を使用される場合は、「項目3 一般規定、失格、審査票」と「項目4 ヒールワーク・トゥー・ミュージック (HTM) とフリースタイル」部分の遵守を希望いたします。

1 FCI ドッグダンス競技会の管理、参加者および審査

1.1 健康

伝染病、感染症にかかっている犬、鉤虫、疥癬、その他害虫がいる犬は、FCI 国際ドッグダンス競技会に参加することはできない。

1.2 アンチドーピングおよびワクチン接種の規則

所属国および競技会開催国の規則に従い、国内予防接種規則およびアンチドーピング規則を遵守しなければならない。これらは競技会開催国のウェブサイトに掲載されるべきである。

1.3 攻撃性

攻撃的な犬は競技施設に入ることができない。競技中（自身の演技前、演技中、または演技後）のいかなるときも、犬が人や他の犬を噛んだり、噛もうとしたり、攻撃したり、攻撃しようとした場合、審査員長は犬を失格にする。事件はその犬のワーキングブック（所属国で提供されてい

る場合)に記載され、演技がすでに完了していてもすべてのポイントを失う。複数日にわたって行われるイベントの場合、失格はその日以外にも該当し、そのため犬は競技できない。

事件は最終成績に記録され、犬が所属する国内統括団体と開催国の国内統括団体に報告書が送付されなければならない。以上の措置に加え、国内規則が遵守されなければならない。

1.4 手荒な扱い

競技中(自身の演技前、演技中、または演技後)のいかなるときも、犬に罰を与えることを禁じる。体罰はもちろん、犬に攻撃的な態度で叫ぶことも同様に禁じる。審査員は、ハンドラーが口頭または物理的に犬を虐待しているかどうか判断する。これがルーチン中に発生した場合、審査員は演技を中止することができる。自身の犬を虐待したハンドラーは失格とすべきである。犬に対する虐待の疑いがある場合は、ヘッドスチュワードに報告されるべきであり、ヘッドスチュワードは状況を審査員に知らせる。

1.5 発情中および妊娠中の雌犬

~~発情中の雌犬は、FCI 国際競技会およびワールド/セクション・チャンピオンシップで競技することが許されるが、競技会の最後に競技する。それらは、他のすべての犬がルーチンを完了するまで、競技施設およびその周辺から離れたところに置かれなければならない。雌犬が発情中である場合、できるだけ速やかに、最低でも朝のブリーフィングまでに、主催者に通知されなければならない。~~

→ 入場が認められる会場においては全競技終了後に競技することができる。

妊娠した雌犬は、FCI 国際競技会およびワールド/セクション・チャンピオンシップで競技することはできない。

競技日の前 75 日以内に出産した犬も除外されなければならない。

不明確な場合、ハンドラーは獣医による証明書を提出するよう求められることがある。各国国内統括団体は、雌犬の参加資格についてさらに制限を設けることができる。

1.6 外観の変化→ 日本国内では競技可能

断尾または断耳された犬、または美容上の理由で外観が変化した犬は、犬の所属国および競技会開催国の法規に則っている場合のみ認められる。犬の外観の変化による規制は、国内規則に明記され、その国のウェブサイトに記載されるべきである。

1.7 去勢または避妊犬

去勢または避妊された犬は競技することができる。

1.8 犬の検査

必要に応じて、審査員長は、競技会開始前にリングの外で犬を確認するべきである。必要とみなされた場合、審査員長は、追加的に獣医師の診察を要求することができる。国の規程により、すべての犬が獣医による検査を必要とする場合がある。犬の健康が競技することによって危険にさらされる可能性があるとは判断された場合、審査員長は、犬の参加を認めるべきではない。

1.9 ハンドラーの義務

ハンドラーの義務は、競技施設に入場したときに始まり、表彰式の後、会場を離れるときに終わる。

すべてのハンドラーは、規定、規則、およびチーフスチュワードの指示に従わなければならない。

ハンドラーには、最高の行動および適切な服装が期待される。

ハンドラーが規則に従わなかったり、不適切な行動を取ったりした場合、失格となることがある。

競技リングの設置中または設置後は、ハンドラーは、権限を有する者（チーフスチュワードまたは審査員長）の許可がない限り、自国の指定されたトレーニング時間を除いて、犬を伴って競技リングに入ることは許されない。

1.10 犬の装飾品と小道具

犬がリング内で首輪を着けずに演技することは非常に歓迎される。リング内では1つの首輪のみ許される。首輪には装飾を施すことができるが、犬の肩を超えるべきではない。

必要に応じて、ハーネス、コート、マズル等をリング外で装着することができるが、マズルを使用する場合、犬が自由に飲んだり呼吸したりできるものでなければならない。

スパイクまたは電気カラーおよび他の同様の抑圧装置または手段は禁止する。この制限は、競技会の開始から終了まで有効である。

犬の視界を確保するため、長毛犬（頭部）にゴム製のヘアバンドを使用することは許される。ヘアバンドは、主に犬の可視性を改善することを目的とし、装飾とみなされるべきではない。

→ **犬の毛色に沿ったラッピングペーパーは使用可**

グリッターやヘアカラーで犬を装飾することは禁じる。

犬に服を着せることは禁じる。

ハンドラーが自身の小道具を設置したり撤去したりしない場合、ハンドラーは、リング内に小道具を設置および/または撤去する助手を帯同する責任を負う。

アリーナに提示されたすべての小道具はルーチンの演技に不可欠でなければならず、犬によって使用されなければならない。ルーチンの主な焦点は、常に犬に向けられていなければならない。小道具やハンドラーの衣装によって犬の影を薄くするべきではない。

2 現場の準備と設備

2.1 競技リングのサイズ

ワールド/セクション・チャンピオンシップ競技会は常に屋内で開催されるべきである。

国際競技会は、主催国が認める場合、屋外で開催することができる。

リングの大きさは20m×20mで、印が付けられる。これは、しっかりした「板」または、ロープ、テープ等、何らかの境界でも良い。リングの大きさと配置は、競技会全体を通して一定でなければならない。

演目は、障害物のない場所で演じられなければならない。また、競技リングは、障害者や移動に制限のあるハンドラーにもアクセス可能でなければならない。

3 一般規定、失格、審査票

3.1 ハンドラーの一般規定

参加者は、常に、審査員、助手および他の参加者に対して礼儀正しくなければならない。競技会前、競技会中、競技会後の不適切な言動は、失格および/または会場への出入り禁止の対象となりうる。

ハンドラーは、審査員長の許可後、リングに入ることができる。

3.2 音楽

音楽の長さは4分を超えてはならない。最大時間を超えた場合、減点される。超過時間が15秒を超えると、音楽は停止され、競技者は失格となる。

ルーチン中に音楽が停止した場合、競技者はルーチンを最後まで演じる機会を与えられなければならない。不具合の原因が、主催者側が使用している音楽である場合、ハンドラーのバックアップを使用することができる。審査員は、音楽が止まった時点から採点を続ける。

ルーチン中に音楽が停止した場合、ハンドラーは、ルーチンを最後まで演じず、音楽停止前に演じた部分のみで審査されることを選択することができる。

技術的な問題の解決に時間がかかりすぎる場合、審査員は、ハンドラーをリングから退出させ、後で改めて入場するように決定することができる。この場合、審査員は競技者に進行方法を通知する。

音楽が開始されないという問題が発生した場合も、審査員は、ペアを退出させることができる。

ハンドラーは、いつ音楽を開始して良いか、明確に示す。

ルーチンは、音楽が始まると開始し、音楽が終わると終了する。犬とハンドラーのどちらも、ルーチンの最初から最後までリング内にいなければならない。

FCI 国際競技会および FCI ワールド/セクション・チャンピオンシップのルーチンは、4 分を超えてはならない。

3.3 小道具の準備と撤去

小道具/装飾品の準備および撤去は、合計 3 分 (2×1.5 分) 以内に行わなければならない。この時間を超えた場合、失格の対象となりうる。時間は、リングスチュワードによって管理され、遅延は審査員に通知される。

3.4 引き綱

リング内の引き綱の使用は認められない。

可能であれば、主催者は、次に演技する犬が単独で準備することができる別の待機場を提供すべきである。

引き綱は、リングに入る前にリングスチュワードに渡される。

3.5 指示

指示は、声符、ジェスチャーおよび/または体符で与えることができる。犬は常にハンドラーに反応するべきである。犬とハンドラーの調和したチームワークがルーチンを通して維持されている限り、サインの量は重要ではない。

3.6 失格

以下の項目に該当する場合、失格の対象となる：

- a. 申請と異なるハンドラーまたは犬が参加している。
- b. 不正
- c. ドーピング規定を遵守していない。
- d. リング内にフードを持ち込む。
→ リング内に食べ物・おもちゃ等のご褒美、訓練用具を持ち込んだり、与えてはいけない。
- e. 犬が制御不能でリングを離れる。犬が作業継続中に誤ってリング外に出た場合、減点される。
- f. 犬がリング内で排尿したり排便したりした場合。
- g. ハンドラーが明らかにルーチンをトレーニングラウンドに変えた場合。(音楽は最後まで継続する)
→ 競技を棄権したり途中でやめることは出来るが、採点された後でその競技の取り消しは出来ない。競技を途中でトレーニングラウンドに変える場合は、ジャッジに向かって明らかに分かるように止める旨のサインをだすこと。
- h. 手荒な扱いは、いかなる形態 (口頭もしくは物理的) も容認されない。

- i. 犬が会場やショーのグラウンドで別の犬や人を攻撃した場合。
- j. リング内で競技中に引き綱を着けている。
→ 犬を抱く、首輪を持つ、等 犬の動きを物理的に制御して入退場することを禁止。
- k. ダブルハンドリング — リング外からの補助
- l. 犬をコントロールするために接触する。ハンドラーが自ら犬に触ることは許されない。犬から行うべきである。

3.7 採点

3.7.1 表現

| 表現 |
|----------|
| 9点満点 |
| 協力 |
| 流れ |
| 応答性 |
| コマンド/指示 |
| 当日の表現 |
| 動作の正しい履行 |

このセクションの減点の対象： 過度の吠え

3.7.2 内容

| 内容 |
|---------------------------------|
| 9点満点 |
| 犬への焦点 |
| ルーチンの構成 |
| リングの使用域のバランス |
| リングの広範囲の使用（犬のサイズによる） |
| ルーチンを興味深くし、しかも詰め込み過ぎない、動作量のバランス |
| 動作の多様性 |
| 個々の動作の難易度 |
| 動作間の移行/つなぎ — ばらばらな動作の連続でない |

このセクションの減点の対象： フリースタイルの動作またはヒールワークの正しい量、音楽が長すぎる、犬に衣装を着せる、小道具をほとんど使用しない、および/または使用しない小道具がある。

3.7.3 芸術的解釈

| |
|---|
| 芸術的解釈 |
| 9点満点 |
| 構想の可視化 |
| 音楽が犬のペースと動作パターンに合っているか |
| 区切り/切替わり（音楽の表記） |
| 適切なハンドラーの動作。ハンドラーの動作は犬のパフォーマンスを高めるべきである |
| ルーチンは音楽の感情を反映しているか |
| 音楽の適切な使用 |

このセクションの減点の対象： テーマに関連性のない小道具、ファミリー・オーディエンスに適さないルーチン。

3.7.4 動物福祉

| |
|-------------------------------------|
| 動物福祉 |
| 3点満点 |
| ルーチンは、犬の質（犬種、性格、身体能力、精神能力等）を強調しているか |
| 犬の健康と安全 |
| パートナーシップ |

このセクションの減点の対象： 不適切な扱い、配慮に欠ける小道具の使用。

3.7.5 「個人」戦における同点

2頭の犬が同点で1席（合計点が同じ）場合、再演技を行うべきである。

2頭以上の犬が1席以外で同点の場合、「動物福祉」の得点が最も高かった犬が優先される。それでもまだ同点の場合は、席次を分ける。

4 ヒールワーク・トゥー・ミュージック (HTM) とフリースタイル

4.1 ヒールワーク・トゥー・ミュージック (HTM)

「ヒールワーク・トゥー・ミュージック」(HTM) のルーチンには、最低 75%の HTM の動作と、最高 25%のフリースタイルの動作が組み込まれる。ルーチンを通して、犬がハンドラーから 2メートル以上離れることは許されない。

4.1.1 「理想的な」ヒールワーク・ポジションの定義

理想的な HTM ポジションの犬とハンドラーの距離は、一定であり、15cm 以下である。犬とハンドラーのいずれもお互いの動作を制限するべきではない。犬は常にハンドラーのペースと方向に適応しなければならない。犬は、すべてのポジションで平行を維持し、横への動きでない限り、1つの軌道上のみを移動することが要求される。犬とハンドラーの距離が 50cm を超えた場合、フリースタイルとみなされる。遅れたり、先行したりする犬は望ましくない。距離はハンドラーと犬の最も近い部分が測定される。犬は 4本の足すべてで歩かなければならない。犬はハンドラーの両側を歩くにあたって、同じように安定していなければならない。犬は自然体で動くべきである。

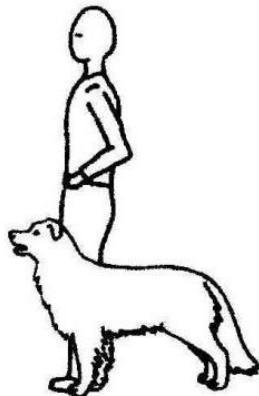
4.1.2 技術的難易度

ルーチンの難易度は、ポジションの数だけではない；それはまた、動きの方向およびペースの変化も関係する。ポジションの変更は、犬が自立してポジションを見つける能力を示す。

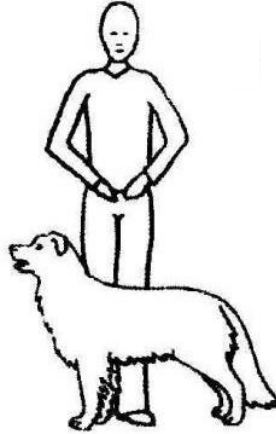
4.1.3 ヒールワーク・トゥー・ミュージック (HTM) のポジション

ハンドラーは、以下のリストから自身のポジションを選択する：

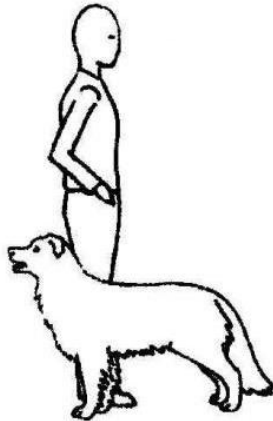
1： 犬の右肩が、ハンドラーの左脚（左側）の隣に、平行に位置している。



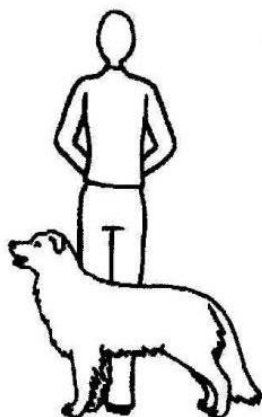
- 2： 犬がハンドラーの前に、犬の右側がハンドラーの前に来るように、横向きに立っている。犬の右肩は、ハンドラーの右脚に位置している。犬の右肩は、ハンドラーの右脚の内側、外側のどちらに位置していても良い。



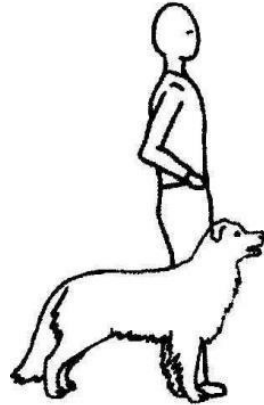
- 3： 犬の右肩が、ハンドラーの右脚に平行に位置している。犬はハンドラーの方を向いている（逆向き右側）。



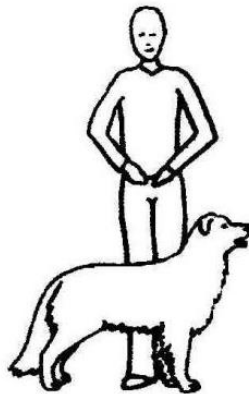
- 4： 犬がハンドラーの後ろに、犬の右肩がハンドラーの左脚に来るように立っている。



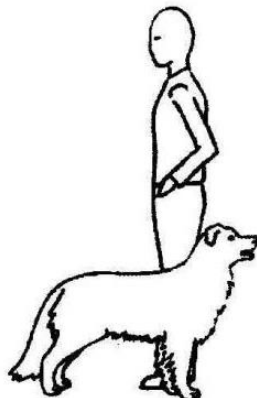
5： 犬の左肩が、ハンドラーの右脚（右側）の隣に、平行に位置している。



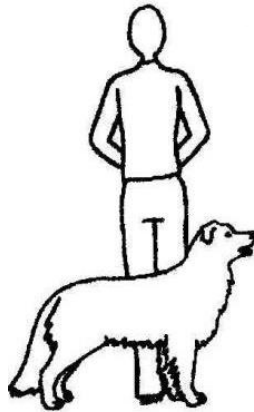
6： 犬がハンドラーの前に、犬の左側がハンドラーの前に来るように、横向きに立っている。犬の左肩は、ハンドラーの左脚に位置している。犬の左肩は、ハンドラーの左脚の内側、外側のどちらに位置していても良い。



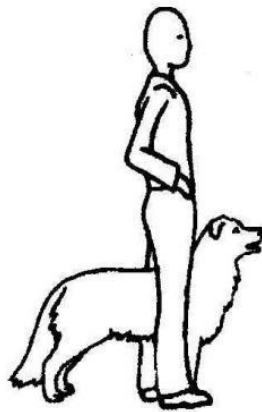
7： 犬の左肩が、ハンドラーの左脚に平行に位置している。犬はハンドラーの方を向いている（逆向き左側）。



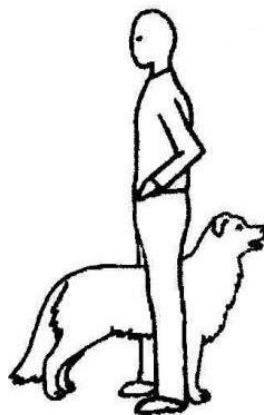
8： 犬がハンドラーの後ろに、犬の左肩がハンドラーの右脚に来るように立っている。



9： 犬が、ハンドラーの脚の間に位置し、ハンドラーと同じ方向を向いている。犬の肩は、ハンドラーの脚の位置にある



10： 犬が、ハンドラーの脚の間に位置し、ハンドラーと反対の方向を向いている。犬の肩は、ハンドラーの脚の位置にある。



4.2 フリースタイル

「フリースタイル」のルーチンには、最低 75%の FS の動作と、最高 25%の HTM の動作が組み込まれる。動作が犬の健康を危険にさらさない限り、すべての動作が許される。

4.2.1 技術的難易度

「理想的な」フリースタイルは、幅広い種類の異なる動作で構成される。動作は、音楽の変化に従って、流れよくルーチンに組み込まれるべきである。

規程は英語で書かれた。不確実な場合は、英語の原文が他の翻訳より優先される。
この規程は、2017 年 4 月、パリにおいて開催された FCI 執行委員会で承認された。
これは、2017 年 6 月 20 日から発行する。